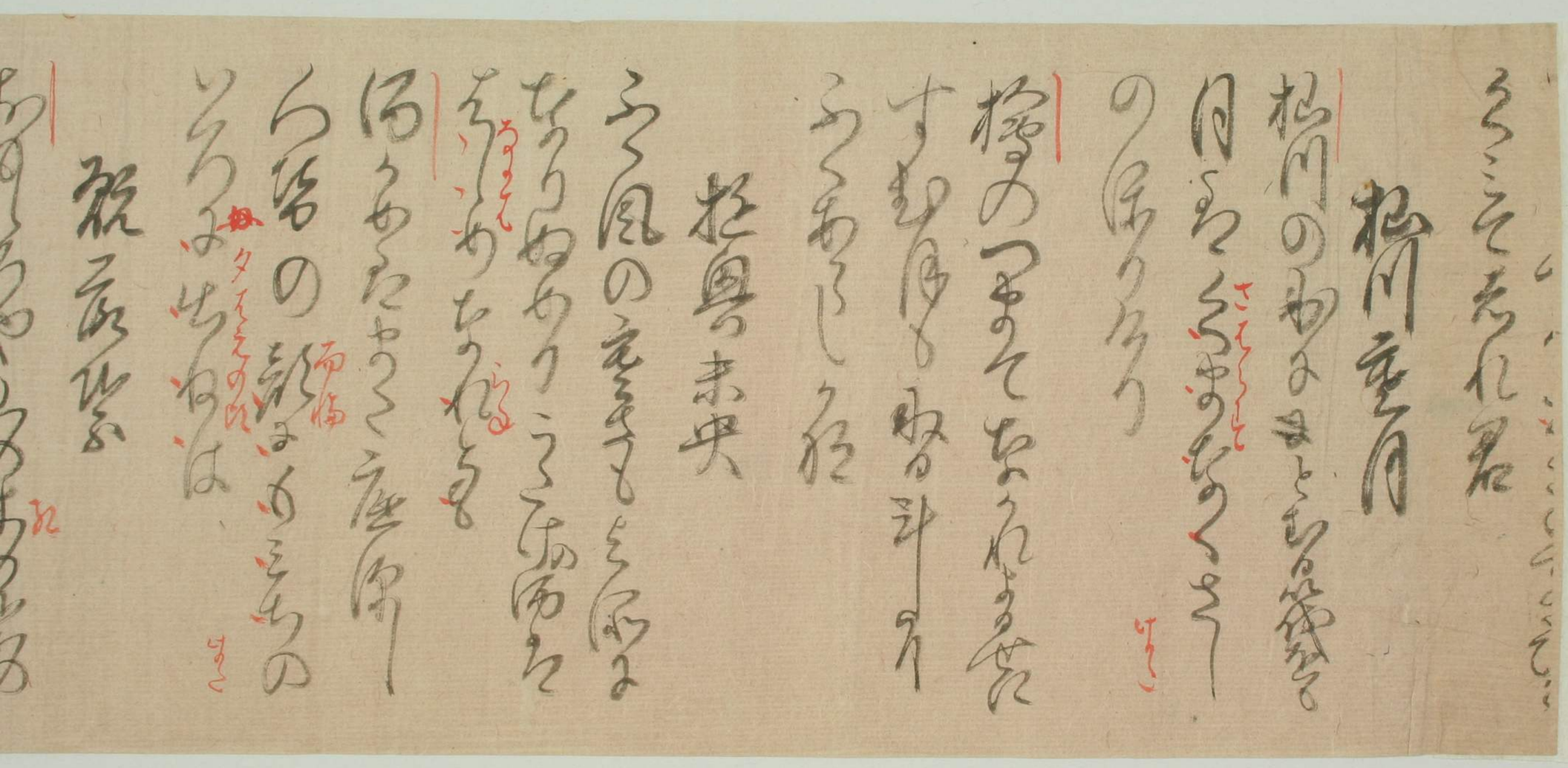


何となくたかく庭隅し
人皆の袖はすゝしの
いろふかきは

翫落葉

おもしろや山の木の葉の
ちるは風のさそはれての
いろはみえけり

紅葉ちる山のおろしの
音まして木のはのをとにて
なかの音のしき
ちるのとてみなまさるおのか
紅葉はゝ山のもみちは
うはちりける

庭樹風

椎柴の梢ふきまる
この世のおとに森落葉よ
松かの山に
風寒る雨中のゝは
花そこれ時秋のいそ
こゝらのはして
[illegible]

雲路さへ山のはなれぬまに
うハきえはつる

冬樹風

椎柴の梢ふきさゆる
この世のかたに木葉さそふよ
松かねの山に

風寒る尾上の峰のつよ
出てくる月に出秋のそら
ここちのはして

雲かゝる杜の下ふきさ
嵐にあひて相行き秋を
ふくあらしかな

山紅葉

菊川の岩まの水の
あにうつる紅葉もわかて
神まつ月かな

宮ぢけは岩ねに紅も
秋にて紅葉のこぼれ
風に秋なけ

木々のしい月のかへ

葛のはふ松の下をさ
嵐にあひて散行秋を
ふくあらしかな

山紅葉

夕日の岩ねの
みとりそ多かりて
秋の夕日に色

紅葉ハ岩ねも
わけて出る雲霧の
風に秋のけ

あらしハ月の所をも
とめきて山の端を
みよしあるらん

岩陰の秋の月夜の
なかめにこよひ見えなされ
みし人もなく

遠岳雲

風さそふ秋の夜の嶺か
あと先てこゝろまよふれ
あはれなかりし

思ひ寝の秋の月夜の
夢にも見えぬ人ゆゑ
なくしも涙

寄雲恋

風さそふ有明の村雲に
おもひそてこゝろそらなれ
あはれなるらし
山桜霞まよひそれ
たちわかれてなほまた袖の
いやこそわりぬる

寄鶯

われてどしのあなたに
笑すゑてよそのひかりを
こゑやなかるらん
星崎の山おろし見ゆも
花咲ぬとしのた
かりそめかれうつるね

経年恋

あまれはすゞ河の花か
われてこそなかれつひとよ

老僧とてのを
うりそあれ行うるる

經をよ

あまをとこ
あまをとこ
あまをとこ
あまをとこ

西遊抄云

孫山のあかつきの
ほとゝぎす
鶯のこゑ
あまのをぶねの
あまをとこ
あまをとこ
あまをとこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春懐舊 手迴

茂野上

雪とくれ水ぬるむ頃
うぐひすの
山ちを去のひとこと
春ぞそてふる
かつ紅ともかつらぬ人を
おりふせかなそ

海邊月

こゝとやまとゝ
あるはたのうみのそこに
なるのんすゝをも
海そこにかたるのこのちを
ぬるおうちなひを
月のかねうゝ
あゝゝゝ海ゆあえてう
そゝなる青海あるゝ
ちみちにうり
けちゝ空もさて
海をあかるゝ
つきゝをゝ
つゝみなる月のうゝを
いそのなみにて一枝と
をりかけ
ゝゝゆくおのの手枝を
つゝふんて秋をうゝと
いかひとなり

一　歩野上

春懐舊

手廻

営とくれにたつく烟や
うれしられたるやむものの
出とをき志のひと
和かれそとて為に謹誤に
かつれとをかつらぬ人を
おもふたかたな

海邉月

こともつく唐もやまらん
あま乃江のなつみのもとに
都あのうんすそしそ
海邊にかたらのこちを
ねよおかうしらぬこひを渡る
出の跡
あつき出て浦よあそんでら
そら経たの白青海原に
わみわしにたり
付るゝハ空方とさして
海人をとめかゝるもあ思よ
つき出てまとて
。ぬ絵する月のへつを
いそのなつみれいて一夜と
あかりかけぬ潮り
たつろゆくおきの千鳥を
つまらふかんて秋をうつと
いふひとなし

原立樹

春ゆかぬのあらかりける
おもてなく遠風立ちよる
夏籠のたちうち
見慣いたる理法をたる
うぬぼれ原月ゆかりも
あるとしたりうち

白水初秋

言葉四角ばかりし立ちよる
時なるいなほそなや
ことりそあるん

夜のの雙ほそなの
下句この
夢ゆかるこ
ほそなの
ほそなあるる
ほそなりる

松川筏

ぬるものうちなるまなかうち
松川原尚なるものの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

松川筏

ぬるをのこうつまなるかたく
松川ふ白くもたうとの
立ひろうる筏

松川やあちまの
いかくい高の影の
高をかたよて

[illegible]

[illegible]

雪中雪

うとかすをとれをし

みなき山の雪まあの雪
海の山をもの
松

むらのぬをうの雪
色をとて松をよりう
ゆかるる筏

隴隠よさえもこゝろも
さしてゆくち紀のいうきれ
高木なりけらし

雪中鶴

｜うきかすみそれとみえらし
みなきはの雪よあかめる
深雪の山ともゝ

松（松）｜むらはらの雪の
色そへて梢をよりて（けきらし）
みかくすなれ

名所恋

｜いひられと丹えし山に（か）
やまかせの家よこゝろ
さらぬもなりし（き）（けし）
｜恋すれいふとの隈ふ
むらくもゆるのあい
家所なりけり

月出東山

｜東のやまのはのつきの

色まさる秋のよのなかて（けさ らし）
めかくすれ

名所霧

いひしれと嵯峨の山か（か）
やまさとの霧はこゝろ
猶くらもなき（き けさ）

恋すれはこその関ふ
むかしてをるへみのあ
霧ふかりけり

月出山

あのやまのはのつきの
うつるをはふくころしも（松を けさ）
まつすゝさりけり
西おきあるいつはや
こゝろんみあひて出る
きらんをとて

嵐驚梅

色つきし春をよろこふ
色かへてんりて

色まさて梢よりもなほ
めかれせぬ

名所霞

いひられと野をし山か
やまひめのかみこころ
春くれてなほき

夜すれいつとの露ふ
むらさめのつゆのあい
家ふかりけり

月出東山

あのやまかのつきの
うちをはふくこえしも

出つるさかりかり
西おもてにふいつもや
こりてんゆかひて出る
さくらんをとて

田家梅

なつきし春をよろこふ

月出でぬる山

朝のまもりの方のつきの
うすきをはらふこずえも
紅葉さうりうり

西の方のいもやの
こずえのひかりの
さらんをとこと

梅

朝ぼらけ春をしらせる
色ぞえて
梅のこずえ

市の中のいとまを
見すれば梅さく春を
見るまする

紅葉

赤しのふのうるすの
たちかいうて
いもう法ん

秋堤岡　山吉良退庵

君まそ昔のあとの
長月をあはれ出ちと
思ふさくらへ

おりひ沼の流の
ふるいとすらあれ
源とうり

一 茂理 上

悲歌

村上熊穂が父
うせたりける時

一 なにとなき このよなりけり
しられ行 のちぞしらぬちに
(露かり)いはまし(君)心(けり)

一 わか背子が父のことを
まつあはれ おりひを やそぢ
はしるものなし

前夏

時あり きつのふの春の
いろもかすも老そふの
ふるさとうん

冊の花のあるる家
ゝ原のあるなるの
角てゝ

晩夏

夏ふかみて絽ながをを
さかりなる姫の髪
ひのふるさと
ふるさとの夏を見て
なつせみの鳴や柱の
雫ばかりか（すら）
ぬるゝ人の涙も
秋ちかふ指のせみの
ふるひなるまゝ
忘かたみに源ゝ
ふるさとの人に
せゝのの髪て

夕立

茂堅

こなたより村雨そゝく
山の端に夕日にうつる
虹のかけはし

成尼上

山家
曉雲

山の端の彩雲たなびき
立雲さへ月色つくる
五時の雲

風さへ山の霧の
晴れぬ間は雲ぞ
もの思ふ

古戸萩

高原の古戸萩
さくさ秋の
志賀の

志賀さくさの秋の
雲とたなびく
すむらん

松花尼

内ハかのはとれ社ちれ相見
帝のそ世界をさ
刺の新力て
とさてて
けて
とれて
新風相保ちて
世界の秋の新藥
新をもの
ちすす

田舎人間
かく計りも田のも
とそ新のの三の行る秋を
自まれる行

西洋の方の稲
と言葉自
あるこ
くれ
あるこ
けて

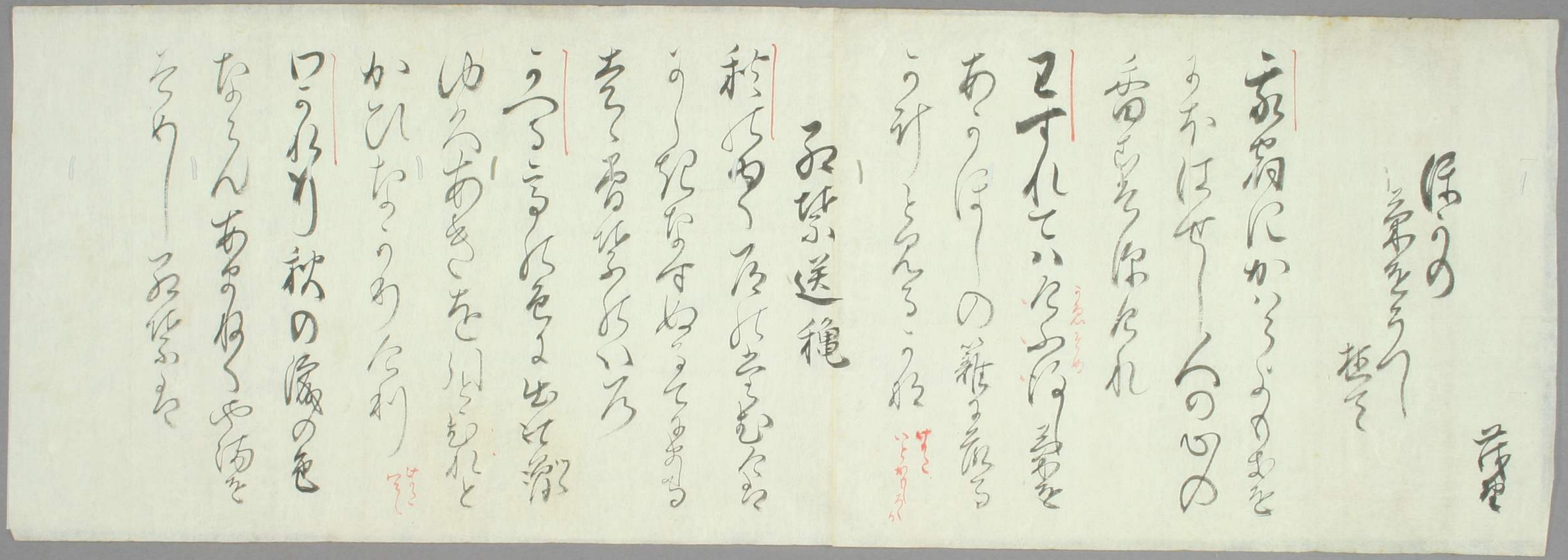
西遊
松雪

雪あれば香椎の宮の
こずゑ花さかぬ枝にも
かはらぬ春の
おもかげかな
見わたせば
白雪ふる
いそのゆふ山

[illegible]

立かるるの男子は
あるを母の年のうるも
うれうらう
あるを母の年のをうるを
いまだ婚姻せざるの者の
婚姻せんとすらんは
とうそへ老を
あるを永いなんか
まをはうそは

KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000 Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



[illegible]

[illegible]

[illegible]

當秋鹿

冬ちかき秋の夕霧
をかしぬれとまろれのる
さをしかの妻

秋をふる雨をなくく
ふるはつまとひ有
しかのあるる

長月のそらさきけい
ゆつよ出て秋をしの
夢をおこの事

成聖

月波雲

澤水をあらはせるけさの
うちなる奥ふかき雲の
あなたの影へ
けさ
到屋このあけぼの風の
立ぬ秋ときるうち
きぬうちの色

山花

雲とみて立つ峯の
やまさくら
花ぞ散りそへ
花ぞちりける

深山の花の雪
降りかかる雪は笠を
きるかとぞ思ふ

ちるはなを少とまとい
ひ花とする仏ぞうそ
花のやまとと

ちりぬるを宮ぎの
さくら花みんとての
まちをやまん

ちるはなをとまるぬと
思ふ花やまの梢を
ちらすてそ

すゑかぜの吹まきれて
このもとも（イ　おのれのもとの）ふるさと
ちるかはる（イ　ちるかはる）

さくらさくもの山のさくらは
雪ののをうゝ谷の雪きに
ちりそめにけり

山の花のさくるも
をこの雪の雪の
ちのそられ

のこれすむ山のさくの
ちるとをはなのさかりも
（イ　ちるとをはなのさかりも）
なの宮（そのやう）さくらかり　後

春懐舊　三題

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝろもの思ふ春の夜は
あはれなるかなたのそらに
月入るとみるまで
満ぬれば桂のかげを
ぬきかねて
月の舟うく
西の空なる月のうつを
いそのなかのいそ松と
なりわたるかな
仏あるあるの千枝を
つまんで秋をうつを

羈旅

旅すてかつら落れい
そそそそ夢ひ宮ぬ
古のそそう

月をそ寄さひよ
旅そ寄さひよ
あかきそにろう

あのひそれ小さう寄
古のそ寄すはのそふ
旅の夕郎

清れいを所をなて
月をなつんはなる坂に
春風ちるうん

つなとこうの橋の
すりもちるもひよ
春のいかりより

かりやゆ舟の棹の
いくとあるのあるよ
夢さるる原

橋りいか春の山と
ふいをとうをちるを
ちるるり

風をいか舟のすを
舟をちるあるひよ
つるちるひよ

森紅葉　茂野上

紅葉のあやちるよりそをもかな

穿れぬきの宮

雲居の紅葉

無数なのみをそめ樹と

ふるこひの杜も

赤葉ゆ乃ちり

紅葉をやくかて

乃花いかかの森の

黄葉の色まして

おもふ宮の森の紅葉

東郭の岩ふるこそ

岩ふ和乃ん

九月尽夕

来ぬ秋の山あふ
ぎるを秋のあるとと
おもひしるこの頃
秋をうらふのゆふ露の
風をいとはぬそでにまぬ
月をとこ
雲霧の
下草の冥のあらの
おもてのとけぬんを
空ともなる
ゆふ書の法をかの
世界をもとめて
ゆふ月を

田家水鳥

茂野

なのみする田ふせの波
はつ霜をうつのあるる
まらはたふるの水

あうをあにひるをれて
ひのもるひかり鵜うの羽をや
たをすす高ぬるん

おのの水むら鳥を出し
をすかと鵜の面りるやの
彩るなのくなり

橋姫

橋姫のやどとはなれる
かゝれとも松あふ河
こゝろをのこそ

あつまの海をゆくまの月
ゆくへなきこゝろ
なるらんとけり

うつせみの橋のちゝに
よるなくらむ
(イ)ゆくへもしらぬ
沼にのこそ

KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

思惟事

（清水大八郎）

有ゆるのこと法界の間
のいろ〳〵のたのもち
ゆることを紀貫て乃世
ゆをもゆれ人の今な
なるる大仏名のもと
をもまけい八百四
涙のあさとやうの
世界の名にあり仏の
たちをおりひるひて
みの名の八百よりそ
のしるかあるとそは
命とものまひの程と
大名のあひをもて
をもけ二のの山の山
ゆをもそ山の紅色
ゆ山山紅葉

思性事

清水大人高志

有ゆるのこと法界の間
のいろ〳〵のたのもち
ものと紀伊て乃事
ものを[京京]ものれ人の事
なるれる大界名のもと
をもきけい白四
涙のものとものの
世界の名にあり界の
なるをもひもひて
みの名界曾ものを
のしの人と世は
界とものものひの世と
大界のものひものて
ものけ二のの山の山
ものを[京京]ものの細四
世界山界世ものを

分をもてあそぶいとゝの
ゆめにこんの書をとひ
ゆめのひろうを春うり梅も
あまるの年月にまかりぬ
つとめて花とる花の梅花
月をうし秋の相方
月新之時をもて春
してもひとゝ割ゝさて
なをのかの霜の霜の春
おんの花の好のあるいまま
さうしかの秋のふる屋
みの元月のもの汁よりの
そねちに縁もて海
きうまうたれいとそ
君うこそ月のいろの
あのうあうもの
とひまきねい皇國の
ゆめひの花をもて紀之の

KODAK Color Control Patches © Eastman Kodak Company, 2000
LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

20 25 30 35 40 45 50 55 60

[illegible]きの村の梅木の
相の[illegible]
[illegible]
嵐の[illegible]社のそれ
あの[illegible]
[illegible]

なのきさ

[illegible]の表面のそのの
梅[illegible]
[illegible]れば　さき

風[illegible]いかの風の
なのあ[illegible]も表面
[illegible]